



—令和6年1月19日（金）15:00～16:40 音楽・文化交流館 大ホール—

【実践発表】 かたひらこども園

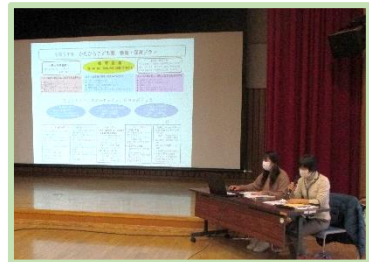
「円滑な接続を見通したアプローチカリキュラムの実践」 「就学に向けた幼保と小の情報共有について」

知的活動に関すること

- ①身近な環境に親しみ、自然と触れ合う
- ②身近な動植物に親しみ、触れ合う
- ③生活の中で文字や数量などに触れる
- ④自分の思いや願いを表現する

↓

学ぶ力



かたひらこども園は遠くに磐梯山を望み、田んぼや畑に囲まれた豊かな環境のもと、本年度から幼保連携型認定こども園として、幼稚園と保育園の機能を併せ持った教育・保育を行っています。

本日は、本園のアプローチカリキュラムの内容と小学校との連携についてお話を伺いました。アプローチカリキュラムは「生活する力」「かかわる力」「学ぶ力」を主柱として、これらの力が教育・保育を通して育まれるよう実践しています。例えば、泥だんご作りでは、完成させるまでの子どもと先生の関わりや環境構成等で、楽しさや充実感を見だし、「学ぶ力」が発揮され、「10の姿」の「思考力の芽生え」等が現れました。小学校との連携については、就学児童の抱えている悩みを把握して解消に努めていますが、就学先が10校にも及ぶので、今まで以上に幼保と小の共通理解が必要ではないかと提言がありました。

【協議会】 グループ協議で発表に対する感想・意見交換が行われました。



☆ かたひらこども園の発表について

- ・遊びや生活の中での園児の主体的な活動に職員が寄り添い、環境設定等を配慮しながら学びに向かう力を育てていること等、大変勉強になりました。
- ・アプローチカリキュラムでは、就学前の保育で大切にしたいこととして「安心感を持てるように」「基本的な生活習慣」「学校への期待感」を基に就学児童のカリキュラムを作成しており、職員同士の共通認識が図られていると感じました。

☆ テーマ「円滑な接続を見通したアプローチカリキュラムの実践」

「就学に向けた幼保と小の情報共有について」

- ・施設交流や「幼保小相互参観協議会」に積極的に参加し、相互に子どもの育ちを理解したうえで、就学前後のカリキュラムを作成していくことが望ましいと思います。
- ・各幼稚園、保育所（園）からの就学先が複数校あり、情報共有の在り方を検討する必要があります。

《参加者からのアンケートから》

- ・かたひらこども園の泥だんご作りの実践を聞いて、自分自身の保育を振り返りました。子どもが自ら考えられるような環境設定が大事であると感じました。（認定こども園：参加者）
- ・小学校と幼稚園、保育園との話し合いができて、貴重な機会でした。互いの思いや努力している姿が見えたので、架け橋プログラムの重要性を改めて感じました。（小学校：参加者）

「協議会だより」は総合教育支援センターのウェブサイトにも掲載いたします。